

●ダイヤゼブラ電機

CN燃料設備強化 燃焼実験を高度化

ダイヤゼブラ電機(株)(大阪市淀川区)は、超高エンジンギア点火システムを用いたカーボンニュートラル(CN)燃料の燃焼実験を推進すべく、エンジン評価試験設備にCN燃料供給システムを追加する。2023年中の実験開始を目標とし、今後さらに設備を拡充する予定である。

自動車業界では、アンモニア燃料をはじめとするカーボンフリー化を目指した新燃料の燃焼研究が電動車関連の技術開発と並行して進められている。同社は、点火燃焼技術開発メーカーで、レシプロエンジンを応用した新点火システムの開発を進めてきた。また、18年にグループ会社のダイヤ

モンド電機(株)(鳥取市)に「A-Lab(燃焼ラボ)」を設立し、アンモニアと水素の混合気を燃料とした実車での燃焼実験を重ねてきた。

今回、既存のエンジンベンチにCN燃料供給システムを追加する。これまで実

車での試験可能領域が限られていた評価条件の拡大や試験精度の向上が図れ、アンモニアと水素の混合気を燃料とした高度な燃焼実験が可能となる。さらに、超高エネルギー点火システムによる運転領域の拡大を目指す。

